

スマート I C 設置基礎調査業務委託（概要版）

§ 1. 業務内容

- (1) 業務目的：明石サービスエリアへのスマートＩＣの設置可能性に関する基礎調査
- (2) 業務箇所：明石サービスエリア周辺
- (3) 業務期間：令和４年９月８日～令和６年３月３１日
- (4) 業務内容：スマートＩＣの概略検討や交通量推計を実施し、設置の可能性や課題等について調査した。

§2. スマートIC概略検討

2.1 検討方針

- ・明石サービスエリアに隣接したスマートＩＣとする。
- ・大久保北部市有地へのアクセス性を考慮し、神戸西バイパス工事の迂回路にアクセス道路を接道する。
- ・第２次最終処分場は今後も継続して利用する予定のため、第２次最終処分場への影響をできるだけ避ける。

2.2 検討案

A案：東側既存道路（神戸西バイパス工事の迂回路）に接続

Ｂ案：東側既存道路（神戸西バイパス工事の迂回路）と西側市道（大久保 18 号線）に接続

※2.1 検討方針を踏まえて、接続可能なルートを検討

2.3 検討結果

石ヶ谷公園の梅園エリア等を活用することでスマートＩＣを設置できる可能性がある。

迂回路に接続するスマート IC へのアクセス道路は、第 2 次最終処分場の堰堤部分や明石サービスエリアの敷地等を利用することで設置できる可能性がある。

		A案	B案
概要		スマートICと一般道が区別でき、公園への影響が比較的小さい。	東西を結ぶ道路ができ、交通量の分散や渋滞緩和が期待される。
イメージ図			

§ 3. 交通量推計

平成 22 年道路交通センサスベースのデータを基に平成 42 年の将来交通量を推計し、スマート I C の利用交通量等を把握した。また、スマート I C とその前後の既設 I C における交通量の合計が、未整備時の前後の既設 I C における交通量の合計を上回ることを確認した。

	A案	B案
スマートIC利用交通量	約6,900台	約8,600台
スマートIC未整備時との利用交通量の増減	+約3,000台	+約3,200台

§ 4. 周辺道路の整備検討

4.1 検討内容

スマートIC設置による明石SA周辺での交通の変化を踏まえた車線増設（拡幅）や交差点改良の必要性等について検討した。対象路線は右図のとおり

4.2 車線増設の必要性検討

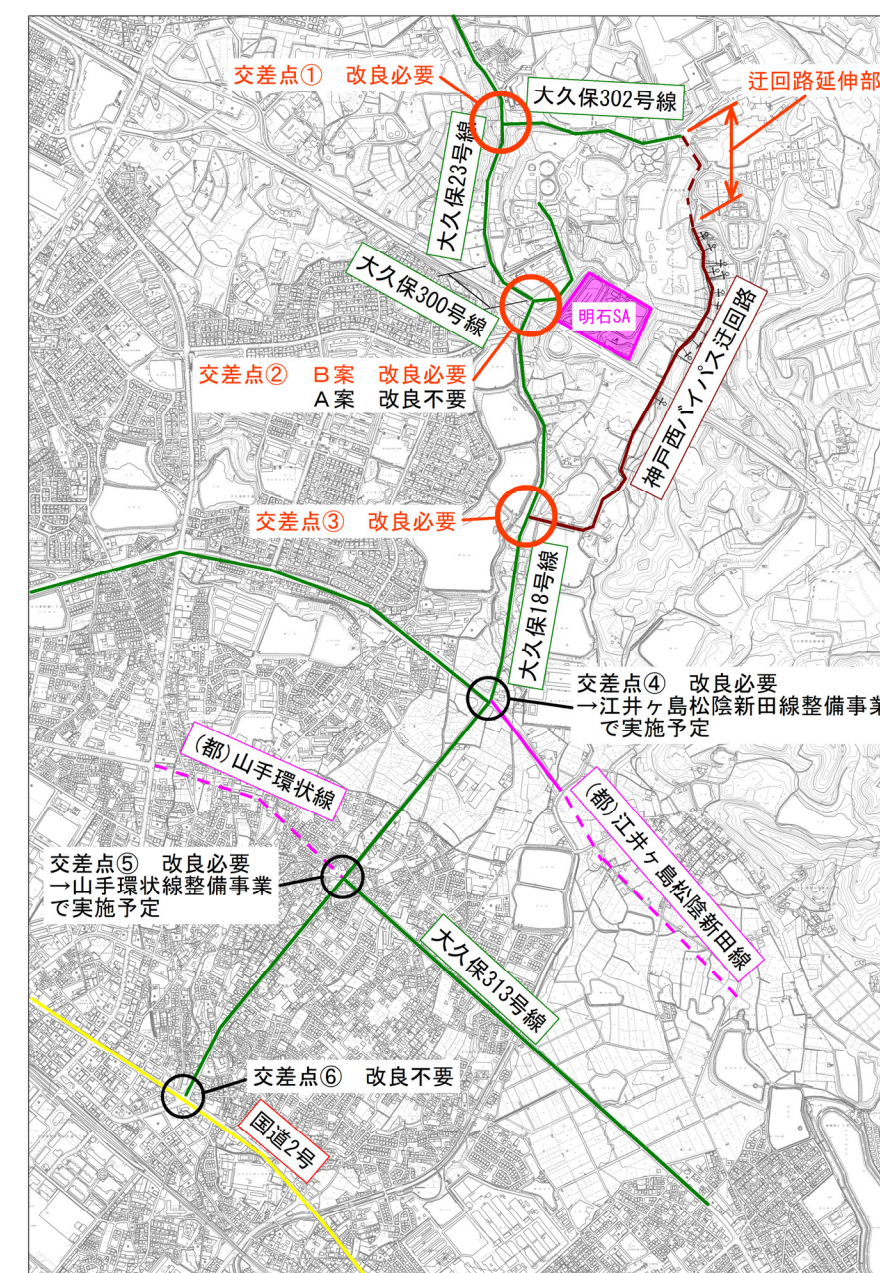
検討対象路線の将来交通量は、ほとんどの区間で目安となる交通量を下回っており車線増設は必要ないと考えられる。

4.3 交差点改良等の必要性検討

スマート I C 利用可能な最大車両となるセミトレーラーの通行について対象路線における交差点での軌跡検討を行い、改良が必要な交差点（拡幅や右折レーンの設置）や整備が必要な路線を把握した。検討結果は右図に示すとおり

§ 5. 整備費用の検討

スマートＩＣの整備費用は、周辺道路の整備費用等を含め、Ａ案Ｂ案共に概算で約１４億円、その内、市の実質負担額は約３億円（国庫補助金や交付税措置を見込んだ場合）となった。



§ 6. 課題

課題1：スマート I C の設置場所を確保するためには、石ヶ谷公園の梅林（2ha 程度/梅園のおよそ 80%）の移設等について調査が必要

課題2：スマートIC周辺道路では交通量の増加が予想されるため、渋滞発生や交通事故の可能性等、周辺道路への影響について調査が必要

課題3：都市公園である石ヶ谷公園内でのスマート I C の設置には都市計画法や都市公園法の規制解除について調査が必要

課題4：スマート I C の迂回路へのアクセス道路が第2次最終処分場の堰堤部分等を利用したルートのため、敷地への影響について調査が必要

課題5：スマートIC設置による自然環境や無秩序な開発等の可能性など、周辺地域への影響について調査が必要
課題6：完成まで期間を要することから、本市のまちづくりの方向性や今後の社会経済情勢を見極めた対応が必要